

映画『アポロ13』(APOLLO13 配給ユニバーサル映画 (C)1995 Universal Studios)に次のようなシーンがあります。

―― 月に向かったアポロ13号は故障で月面到着を断念し地球に帰還しなければならない。しかし、故障のため十分な電力も無く姿勢制御できない状態で手動操作により地球に戻る作業をしなければならない――



## 臨機応変

チャプタ 39- 01:28

船内の二酸化炭素濃度が上昇し、危険な状態にある。その対策をヒューストンのホワイトチームは考えた。

対策は、船内にある物だけを使って浄化器具を作るもので、それを口頭だけで指示するアナログ作業であった。

― ダクト用のテープ、赤い宇宙服用ホース、飛行計画書の表紙を用意しろ。

― ダクト用のテープを3フィートの長さに切るんだ。

(通信手： ええっと ……)

腕を使えばいい。片腕をいっぱい伸ばした長さだ。



## 信頼1 「洗濯機で飛んでも」

チャプタ 40- 01:34

老人介護ホームに居るブランチ(ジムの母)のところへ、マリリン(ジムの妻)と子ども達(長女 バーバラ、次女 スーザン)が訪ねてくる。



ブランチ BLANCH =ジムの母  
マリリン MARILYN =ジムの妻  
バーバラ BARBARA =長女  
スーザン SUSAN =次女



ブランチ：(すすり泣くスーザンに) 怖いのかい？

Are you scared?

ブランチ：(うなづくスーザンに) 心配しなくていいんだよ、ね。 たとえ洗濯機で空を飛んでたって、うちのジミーなら着陸させれるんだから。

Well, don't you worry, honey. If they could get a washing machine to to fly... my Jimmy could land it.

## 信頼2 「イーグル・スカウト」

チャプタ 47- 01:50

ジムの家にみんなが心配して集まってきてテレビの報道番組を見ている。

ブランチ BLANCH =ジムの母  
マリリン MARILYN =ジムの妻



ニール NEIL=宇宙飛行士 ニール・アームストロング  
バズ BAZZ =宇宙飛行士 バズ・オールドリン

マリリン： …… ブランチ、こちらの方たち、一緒にテレビを見てくださるの。  
ニール・アームストロングさんと、バズ・オールドリンさんよ。

.... Blanch, these nice young men are gonna watch the television with you. This is Neil Armstrong, and this is Bazz Aldrin.

ニール： はじめまして。      バズ： こんにちは。

Nice to meet you.      Hi.

ブランチ： あなたたちも、宇宙開発の  
関係者なの？

Are you boys in the  
space program, too?



young men と紹介された二人を boys と呼ぶブランチ。

チャプタ 50- 01:57

テレビの報道番組では、大気圏に突入  
した際のとてつもない高温がもたらす  
危惧が語られている。

ニール： ところで、えーと、ブランチ？  
So, uh, Blanch?



ニール： ブランチ、ええと、ジムはイーグル・スカウトになったの？  
Blanch? Did, did Jim, uh, make Eagle Scout or not?

ブランチ： ええ、なったわよ。（“もちろん” というように）  
Yes, he did.

ニール： そうか。（“ならば大丈夫だ” というように）  
He did.

アメリカのイーグルスカウトは最高位の進級者で、全ボーイスカウトの2%ほど  
が進級しています。このシーンでは、ボーイスカウトでそこまで進級した者なら、  
どんなに困難な局面でもくじけずに道をきり開くだらう、体験を積んだ者は、想定  
外でも臨機応変に対応できる、という信頼感があります。

chapter

(書物・論文の)章、(人生・歴史などで一章をなすと思われる)重要な一区切り、一連  
の出来事、集会、総会、(同窓会・クラブ・組合・協会の)支部、分会、(cathedral  
または collegiate church の) (聖堂)参事会、(修道院・騎士団などの)総会 【語源】  
ラテン語「頭」の意